

## 会務報告

### 1. 2022年度運営委員会

2022年6月2日18時よりZoom会議にて行われた。出席者は、出井雅彦（会長）、豊田健介（庶務・会計幹事）齋藤めぐみ、澤井裕紀、鈴木秀和、千葉 崇、豊田健介、伯耆晶子、真山茂樹、渡辺 剛（以上運営委員）、佐藤晋也（編集長）。

#### 【報告事項】

#### 1. 会員状況

庶務幹事より資料に基づき、2021年度末での会員状況が報告された。

豊田健介幹事より以下のような会員状況が報告された。普通会員166名（一般会員139名、学生会員20名、奨学会員1名、家族会員2名、海外会員4名）、名誉会員0名、団体会員1名、賛助会員2名（個人1名、団体1名）、合計169名（2021年12月末日現在）。

#### 2. 編集委員会関係状況

佐藤編集長より、資料に基づき昨年度及び今年度のこれまでの編集状況の報告と、本日の編集委員会での議論について報告がなされた。編集委員会では、投稿規定の末尾に「DIATOM論文の著者は、論文1報あたり1万円を支払うことで、J-STAGEへのアップロードと同時に即時オープンアクセスにすることができる」と加筆することが提案され、承認されたとの報告があった。

#### 3. 会計状況

会計幹事より、資料に基づき2021年度の会計状況の説明があり、会計監査の柳沢幸夫氏と小林 敦氏の監査を受けたことが報告された。

### 令和3年度決算（2021年1月1日～2021年12月31日）

収入		支出	
前年度繰越金	5,656,395	Diatom36巻 印刷費※	554,972
会費	540,000	Diatom36巻 発送費※	22,578
会誌売上金（3冊分）	15,000	庶務雑費	14,005
受取利息	60	大会開催助成金（1回分）	50,000
		日本分類学会分担金	10,000
		インターネット維持費	10,000
		論文査読謝礼金	45,000
		次年度繰越金	5,491,510
	6,211,455		6,211,455

※ Diatom vol. 36 について出版および第1便の委託郵送費用を計上

#### 4. 今年度の秋の研究集会及び来年度の大会について

現時点では、今年度の研究集会については全く未定。来年度の大会は、文教大（世話人：出井）で対面で開催する。但し、コロナ流行状況によっては、オンラインとする。いずれにせよ、発表の機会は確保したい。

#### 5. 日本分類学会連合参加報告

令和4年1月8日（土）10:00～12:00（オンライン）

加盟25団体の代表者が出席。配付資料をもとに、2021年度の活動について報告された。その後、2021年度の決算、2022年度の事業計画、2022年度予算、2022,23年度の役員について審議した。審議事項として、これまでも何度も議論されているABS（Access and Benefit-Sharing：遺伝資源の取得の機会及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分）に対応するため、日本分類学会連合に加盟する団体は、ABS対応の見える化に協力して欲しい。まずはその一つとして、学会HPに国立遺伝学研究所ABS学術対策チームのリンクを張って欲しいとの要請があった。

#### 6. 日本珪藻学会学会賞

Diatom vol. 36及びvol. 37に掲載された17編の論文について一次選考を行い、その中の上位3編をノミネートし、二次選考を行った。その結果、柳沢幸夫、田中宏之、加藤悠爾による「秋田県出羽山地の新第三紀海成層から産出した淡水湖沼生の中心類珪藻化石」（37: 42–59）が過半数の票を得たので、2022年度の論文賞に選考された。

#### 7. その他

##### 1) 2022年度第1回持ち回り運営委員会（2022.2.8 発信）。

今年度大会の開催方式、日時、世話人について審議。結論：

- ①春の大会はオンラインで実施。世話人については会長に一任。
  - ②秋の研究集会については、3月迄に決定し、対面での実施を前提に準備し、感染状況によってはオンライン。
  - ③来年春の大会は、文教大（世話人 出井）で対面で開催する。感染状況によってはオンライン。
- 追加：春の大会については、納谷友規氏、千葉崇氏を中心に、佐藤晋也氏、渡辺剛氏、豊田健介氏、石野沙季氏が協力して準備をすることになった。

##### 2) 会長及び運営委員の改選

現会長及び運営委員の任期は今年度までとなっているので、秋（10月）に選挙を行う。

#### 【審議事項】

##### 1. 令和3年度決算

報告事項にあった会計報告について審議し、適正と認められた。

##### 2. 令和4年度予算

会計幹事より、資料に基づき本年度の予算について説明があり、了承された。

## 令和4年度予算(2022年1月1日~2022年12月31日)

収入		支出	
前年度繰越金	5,491,510	Diatom37 巻印刷費	552,332
会費	800,000	Diatom37 巻発送費	22,816
会誌売上金	10,000	庶務雑費	60,000
会誌超過ページ代	60,000	大会開催助成金(2回分)	100,000
		日本分類学連合分担金	10,000
		インターネット維持費	13,000
		学会論文賞副賞	10,000
		論文査読謝礼金	55,000
		次年度繰越金	5,438,362
	6,361,510		6,361,510

\*Diatom 37 巻について支払い済

## 3. 日本珪藻学会学会賞

## 1) 令和4年度日本珪藻学会論文賞

日本珪藻学会誌の36巻, 37巻に掲載された論文を対象に, 役員による投票により, 柳沢幸夫, 田中宏之, 加藤悠爾による「秋田県出羽山地の新第三紀海成層から産出した淡水湖沼生を中心類珪藻化石」(37: 42-59)に決定した。

## 2) 功労賞

DIATOMの編集委員長として1997年から2001年まで, 63編の学術論文を含む計5冊の学会誌の編集を担当し, 珪藻研究の普及と発展に大きく寄与した。また8編の外国人研究者による論文を招待し, 本誌の国際的認知の向上にも多大な貢献をした。

## II. 2022年度編集委員会

2022年度日本珪藻学会編集委員会が6月2日(木)17時よりZoomによりオンライン開催された。出席者は, 出井雅彦(会長), 佐藤晋也(編集委員長), 大塚泰介委員, 齋藤めぐみ委員, 辻彰洋委員, 納谷友規委員, 澤井祐紀委員, 渡辺剛委員であった。

## 【報告事項】

## 1) Diatom 第37巻(報告)

- ・総ページ数108ページ。論文10編(原著5編), 木村努氏追悼記事, 第42回プログラムと要旨, 第41回研究集会のプログラムと要旨, 会務報告, 英文論文の和文摘要。
- ・論文の掲載は基本的に受理順とした。
- ・引き続き印刷は, (株)国際文献印刷社に依頼した。

## 2) Diatom 掲載論文のウェブ上での公開について(報告)

- ・受理された論文から順にPDFをJ-Stageにアップしている。
- ・34巻(2018年)掲載の全論文について, 2020年12月末日よりフリーアクセスとした。また, 即時公開権が購入された論文については, 35巻(2019年), 36巻(2020年)についてもフリーアクセスとしている。

## 3) 第38巻編集状況(報告: 2022/6/2 現在)

受理論文:

- ①(原著) Tatsuya HAYASHI & Masao OHNO:

Diatoms in upper Pliocene-lower Pleistocene sediments, subpolar North Atlantic: 4. *Talassiosira hexagona* sp. nov.

- ②(原著) Machiko YAMADA, Mayuko OTUBO & Kuninao TADA: Biogeography and ecological characteristics of the *Skeletonema* species (Bacillariophyceae) in subtropical, temperate, and subarctic zones in Japanese coastal waters.

- ③(研究ノート) 辻 彰洋, 中川 恵, 溝渕 綾 & 大塚泰介: 淡水棲プランクトン珪藻 *Fragilaria longifusiformis* ssp. *europusiformis* の本邦における近年の出現。

- ④(研究ノート) 辻 彰洋 & 中川 恵: 霞ヶ浦における *Fragilaria saxoplanctonica* の出現状況 受付, 審査中: 2件

## 4) 編集委員会体制(令和3年, 令和4年)

編集委員長: 佐藤晋也(福井県立大学)

編集委員: 大塚泰介(滋賀県立琵琶湖博物館), 齋藤めぐみ(国立科学博物館), 澤井祐紀(産業総合研究所), 辻 彰洋(国立科学博物館), 納谷友規(産業総合研究所), 渡辺 剛(東北区水産研究所)。

## 【審議事項】

## 1) DIATOM 誌掲載論文即時公開権の周知について

論文の即時公開については会員間では周知の事実となっているものの, 学会誌HPや投稿規定に一切の記載がない状況であった。そこで投稿規定の末尾に「DIATOM 論文の著者は, 論文1報あたり1万円を支払うことで, J-STAGE へのアップロードと同時に即時オープンアクセスにすることができる」と加筆し, 本制度について周知をはかることが提案され, 承認された。

## III. 2022年度総会

2022年度日本珪藻学会総会が, 第43回大会(オンライン)中に開催された。

## 【報告事項】

## 1) 会員状況

豊田健介幹事より以下のような会員状況が報告された。普通会員178名(一般会員138名, 学生会員31名, 奨学会員3名, 家族会員2名, 海外会員4名), 名誉会員2名, 団体会員3名, 賛助会員2名(個人1名, 団体1名), 合計185名(2020年12月末日現在)。

## 2) 編集委員会関係状況

編集委員長より Diatom 37 巻が発行されたこと, 掲載論文の J-Stage への公開されていること, 即時公開について投稿規定に加筆すること, Diatom 38 巻の編集状況について報告された。

## 3) 会計状況

2021年度の決算が報告された。会計監査の柳沢幸夫氏から当該決算が適正であることが報告された。

## 4) 今年度の研究集会および次年度大会について

今年度秋の第42回研究集会は, 検討中であり, 次

年度の44回大会については、文教大（世話人：出井）で対面で実施する予定であるとの報告があった。

#### 5) 日本分類学会連合総会参加報告

令和4年1月8日（土）10:00～12:00にオンラインで開催された。加盟25団体の代表者が出席。配付資料をもとに、2021年度の活動について報告された。その後、2021年度の決算、2022年度の事業計画、2022年度予算、2022,23年度の役員について審議した。審議事項として、これまでも何度も議論されているABS（Access and Benefit-Sharing：遺伝資源の取得の機会及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分）に対応するため、日本分類学会連合に加盟する団体は、ABS対応の見える化に協力して欲しいとの依頼があった。

#### 6) 日本珪藻学会学会賞の発表

##### ①令和4年度日本珪藻学会論文賞

36巻（2020）と37巻（2021）に掲載された論文を対象に選考を行った。一次選考を経てノミネートされた3編を対象に二次選考を行い、柳沢幸夫、田中宏之、加藤悠爾による「秋田県出羽山地の新第三紀海成層から産出した淡水湖沼生の中心類珪藻化石」（37: 42-59）が今年度の論文賞に選出された。

##### ②功労賞

吉武佐紀子氏に功労賞を贈ることを運営委員会より提案され、承認された。

理由：DIATOMの編集委員長として1997年から2001年まで、63編の学術論文を含む計5冊の学会誌の編集を担当し、珪藻研究の普及と発展に大きく寄与したこと、また8編の外国人研究者による論文を招待し、本誌の国際的認知の向上にも多大な貢献があった。

##### ③日本珪藻学会第42回大会最優秀発表賞：大会終了時に発表し、賞状を贈る。

#### 7) その他

##### ①会長及び運営委員の改選

会長及び運営委員の任期が今年度までとなっているので、秋（10月）に選挙を行う。

### 【審議事項】

#### 1) 2021年度決算

会計監査を受けた以下の決算が承認された。

収 入		支 出	
前年度繰越金	5,656,395	Diatom36巻 印刷費※	554,972
会費	540,000	Diatom36巻 発送費※	22,578
会誌売上金（3冊分）	15,000	庶務雑費	14,005
受取利息	60	大会開催助成金（1回分）	50,000
		日本分類学連合分担金	10,000
		インターネット維持費	10,000
		論文査読謝礼金	45,000
		次年度繰越金	5,491,510
	6,211,455		6,211,455

#### 2) 2022年度予算

以下の予算案が提案され、予算が承認された。

収 入		支 出	
前年度繰越金	5,491,510	Diatom37巻印刷費	552,332
会費	800,000	Diatom37巻発送費	22,816
会誌売上金	10,000	庶務雑費	60,000
会誌超過ページ代	60,000	大会開催助成金（2回分）	100,000
		日本分類学連合分担金	10,000
		インターネット維持費	13,000
		学会論文賞副賞	10,000
		論文査読謝礼金	55,000
		次年度繰越金	5,438,362
	6,361,510		6,361,510

\*Diatom 37巻について支払い済

#### 3) その他

大会最優秀発表賞・学会論文賞の副賞については、今後持ち回り運営委員会で検討した結果、珪藻の写真の入ったマグカップを作成し贈ることになった。

### IV. 2022年度持ち回り運営委員会

#### 1. 第1回持ち回り委員会（2月8日メール発信）

コロナ禍での今年度の大会についてメール審議を行った。

審議事項：

- ①今年度大会の開催方式、日時、開催地、世話人について。
- ②論文賞と最優秀発表賞に副賞について。

運営委員から寄せられた意見を基に、②の副賞については、珪藻の写真の入ったマグカップとの案を採用することになった。審議事項①については色々な意見があったので、以下のような3点に整理し再提案を行い、再審議した。（2月20日発信）。

審議事項：

- ①春の大会はオンラインで実施する。ただし、世話人については、私（会長）にご一任下さい。
- ②秋の研究集会の会場（世話人）を3月迄に決定し、対面での実施を前提として準備をお願いし、感染状況によってはオンラインに切り替えて実施する。
- ③来年春の大会は、文教大（世話人：出井）にて対面で実施する。但し、感染状況によってはオンラインとする。

審議結果、提案された上記3点について賛同を得たので、決定とした。

#### ④功労賞

学会誌の編集委員長（1997～2001）として珪藻研究の普及と発展に大きく寄与したとして、吉武佐紀子氏に功労賞を授与することが提案され、承認された。

#### 2. 第2回持ち回り運営委員会（7月28日メール発信）

審議事項：

- ①2022年度秋の42回研究集会の開催方法は、対面かオンラインか？

委員からの様々な意見と基に、条件付き対面を加えた

以下の3案を再提案した(8月4日)。

審議事項:

- ①オンライン(発表は、午前と午後、夕方からオンライン懇親会)
- ②対面:1日目の午後、2日目の午前に発表(参加者は基本同一ホテル宿泊、懇親会有り)
- ③条件付き対面:1日目の午後、2日目の午前に発表(宿泊先は個人任せ、公式な懇親会無し)

審議結果:

- ①が3票、③が5票となり、③の条件付き対面での実施に向け準備を進めることになった。尚、日程としては、11月中旬から遅くとも12月第一週までとし、東京近郊での開催を計画する案が示された。

### 3. 第3回持ち回り運営委員会(11月10日メール発信)

秋の研究集会の準備が進む中、最優秀発表賞の対象となる若手研究者の発表申込が2件であったため、この中から最優秀賞選ぶのは無理があるのではないかとの意見が準備委員より上がったため、運営委員の意見を伺うことにした。

審議事項:

- ①今回の研究集会に限っては、選考対象が2件であったため最優秀発表賞の選考は行わない。尚、選考に当たっての最低件数については、今後検討する。

審議結果:

本賞の設立時の趣旨に鑑みこれまで通り選考を行うことが良いとの意見が大多数でしたので、今回の審議事項は、否決となりました。

尚、ご意見の中には場合によっては「対象者なし」も有りではと言うご意見がありましたので、今後の検討課題として、次期役員に引き継ぐことになった。

### 4. 第4回持ち回り運営委員会(12月1日メール発信)

第1回の持ち回り運営委員会で、論文賞及び最優秀発表賞の副賞として、珪藻の写真等が入ったマグカップを贈ることが承認された。その後、具体的な進行がなかったが、マグカップのデザインをお願い出来る適任者が見つかった。依頼するに当たり、謝礼を学会会計から支出することについて意見を伺った。

審議事項:

- ①マグカップのデザインを依頼するに当たり、謝礼(3万円)を学会会計から支出することについて。

審議結果:

全員の賛成を得て、学会会計からの支出が認められた。

尚、副賞だけのために限定数を作る(本来の目的?)か、折角作るなら会員が参加の記念に買えるようある程度まとまった数を作るのかについては、今後の検討課題として、次期会長に引き継ぐことになった。

## V. 日本珪藻学会第43回大会報告

日本珪藻学会第43回大会(大会会長:出井雅彦)が、2022年6月4日(土)にオンラインミーティングサービスZoomを使用して開催された。実行委員は、納谷友規(産総研)、千葉 崇(酪農大)、石野沙季(産総研)、渡辺

剛(水産機構)、佐藤晋也(福井県立大)、豊田健介(日歯大)の6名であった。13題の一般講演が行われ、39歳以下の若手発表は3題であった。コロナ禍が始まってからすでに2年半が経っていることもあって、オンライン学会には多くの人が慣れた様子であり、大会は大きなトラブルもなく順調に進められた。参加者の中には、滞在中の海外から参加されている方もおり、オンライン大会ならではのコミュニケーションをとることができた。

大会の最後には、吉岡夢生さん(海洋大・藻類)による「鳥類の排泄物に含まれる珪藻と体内環境への耐性」が最優秀発表賞に選出され、出井会長から表彰された。大会の後には、引き続きZoomを使って総会が行われた。懇親会は、第41回研究集会と同じくバーチャル空間oViceを使って行われた。懇親会では、将来の対面開催の候補地の魅力を伝える有志によるプレゼンが行われ、おおいに盛り上がった。

大会には会員・非会員合わせて59名の参加があり盛況であった。大会の開催にご尽力頂いた関係者の皆様、そして大会の運営・進行に協力していただいた参加者の皆様に実行委員として御礼申し上げる。

## VI. 日本珪藻学会第42回研究集会報告

日本珪藻学会第42回研究集会が、11月26日(土)に東京海洋大学品川キャンパス白鷹館多目的スペース(東京都港区港南4-5-7)において、鈴木秀和氏を実行委員長として開催された。大会参加者は31名、講演題数は12題で、内訳は一般発表が11題(全て口頭)、特別講演が1題であった。特別講演は後藤敏一氏による「珪藻の愉しみ」であった。また、合間にマリンサイエンスミュージアム鯨ギャラリーにて参加者全員の記念写真撮影も行われた。なお、コロナ感染対策のため、恒例の懇親会は企画されなかった。本研究集会は、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、学会事務局と運営委員会とで開催方法の検討がなされ、「まずは対面式の第一歩を踏み出そう」をスローガンに企画され、2019年第39回研究集会(東京学芸大学)以来、3年ぶりの対面式開催となった。9月の募集時は11月26日と27日の二日間を予定していたが、申し込み発表数が少なかつたため、やむなく26日のみの開催となった。当日はコロナ感染の第8波の到来を心配しての実施であったが、会場内では久々の再会を喜ぶ会員同士の談笑が見られ、発表においても活発な討論や意見交換が行われた。最後に、日本珪藻学会最優秀発表賞が菅原一輝会員(東京海洋大学)に授与され、出井雅彦会長と鈴木秀和実行委員長の挨拶で閉会した。

## VII. 会長及び運営委員選挙

2023年、2024年の会長及び運営委員の選挙が10月行われ(10月28日〆切)、11月1日に東京海洋大学において、鈴木秀和会員、菅原一輝会員のお二人を立会人として開票された。会長には大塚泰介氏(次点鈴木秀和氏)が選ばれた。運営委員には、佐藤晋也氏・澤井祐紀氏・鈴木秀和氏・千葉崇氏・辻彰洋氏・真山茂樹氏・納谷友規氏・渡辺剛氏の8名(次点廣瀬孝太郎氏)が選ばれた。